

機関番号：32633

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19390571

研究課題名（和文）地域看護における体系的倫理教育ラダーの開発と評価

研究課題名（英文）Development and Evaluation of an Educational Ladder and Relevant Programs for Ethics Education in Community Health Nursing Practice

研究代表者

麻原 きよみ（ASAHARA KIYOMI）

聖路加看護大学・看護学部・教授

研究者番号：80240795

研究成果の概要（和文）：

地域看護職を対象とした体系的倫理教育ラダーとそれに基づく倫理教育プログラムを開発することを目的に、インタビューと質問紙調査を実施し、地域看護職が実践で遭遇する倫理的課題と頻度、倫理的能力の構成要素と倫理教育の学習経験、実践における判断に影響した経験、倫理の実践に関わる支援環境及び経験年数や職位等との関連を分析した。の結果から暫定版倫理教育ラダーとそれに基づく倫理教育プログラムを作成し、プログラムの試行・評価から、最終版体系的倫理教育ラダーと倫理教育プログラムを作成した。

研究成果の概要（英文）：

The purposes of this study were to develop an educational ladder and the relevant programs for ethics education to promote effective practice of public health nurses (PHNs) and home visiting nurses (HVNs) in Japan. We conducted the interviews and questionnaire surveys with PHNs and HVNs to clarify: the contents and frequencies of encountering ethical issues in their practices, the components of moral behavior, experiences with ethics education, experiences influencing nurses' decisions in practice and workplace environment related to ethical practices; then the relationships between each variable and demographic data including length of work experience and position were analyzed. Based on these results, we developed a tentative educational ladder and targeted programs for ethics education and then conducted and evaluated the trial programs for PHNs and HVNs. Finally, we revised the ethics educational ladder and the relevant programs for ethics education for PHNs and HVNs.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	3,100,000	930,000	4,030,000
2008年度	3,800,000	1,140,000	4,940,000
2009年度	3,800,000	1,140,000	4,940,000
2010年度	1,900,000	570,000	2,470,000
総計	12,600,000	3,780,000	16,380,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学、地域・老年看護学

キーワード：地域看護、倫理教育、保健師、訪問看護師

1. 研究開始当初の背景

国外の研究において、看護基礎教育あるいは

は臨床看護における倫理に関する研究はみられるが、地域看護に焦点を当てた研究は非

常に少ない。また、国内において、地域看護職の倫理的問題に関する研究は極めて少なく、とりわけ保健師に関するものはほとんどみられない。われわれは保健師および訪問看護師を対象とした、日常実践で遭遇する倫理的課題に関する調査を実施した（平成 15 年度）。その調査結果に基づいて、地域看護における倫理教育プログラムを開発し、学士課程学生に試行、評価してプログラムを修正、実践現場の保健師および訪問看護師へのプログラムの試行および評価を実施した（平成 16-18 年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究（C））。これらの研究過程を通して、以下に関する研究の必要性が明らかとなった。

（1）保健師および訪問看護師の経験年数と職位による遭遇する倫理的問題の違い。

（2）保健師および訪問看護師の経験年数による倫理的問題に対する判断基準や対応の違い。

（3）「保健師」と「訪問看護師」の経験年数や職位による体系的倫理教育プログラムの開発。

本来、「技術」教育と「倫理」教育は平行して行われるべきであるが、従来の現任教育プログラムは「技術」習得に焦点が当てられており、保健師および訪問看護師、とりわけ保健師の「専門性」、職業的アイデンティティを明確にできない混乱を招いていると考えられる。また、経験年数と職位により倫理的問題の判断や対応など倫理的能力が異なると考えられることから、地域看護職（保健師と訪問看護師）の倫理的能力育成のための経験年数と職位による体系的倫理教育ラダーを開発する必要があると考えた。

2．研究の目的

効果的な地域看護実践のため、地域看護職の倫理的能力を育成するための経験年数と職位に基づく体系的倫理教育ラダーとそれに基づく倫理教育プログラムを開発することを本研究の目的とした。

3．研究の方法

上記の目的を達成するために、以下のように段階的に研究を行った。

（1）地域看護職の実践における倫理的課題と対応、判断基準について、経験年数と職位が異なる対象者へのインタビュー調査の実施。

（2）地域看護職の実践において遭遇する倫理的課題と頻度、倫理的能力（道徳的行動で測定）の構成要素と倫理教育の学習経験、実践における判断に影響した経験、倫理の実践に関わる支援環境、および経験年数と職位などとの関連を明らかにするための質問紙調査の実施。

（3）それらの結果から、暫定的倫理教育ラ

ダーとそれに基づく倫理教育プログラムの開発・試行・評価の実施。

（4）体系的倫理教育ラダーの作成と倫理教育プログラムの修正。

4．研究成果

（1）研究過程

平成 19 年度は、倫理的能力や地域看護職の倫理的課題、倫理教育プログラムに関する文献検討を進め、プログラム試案を作成し、新人保健師 15 名を対象として試行した。また、保健師・訪問看護師 16 名を対象に、倫理的課題とその対応、判断基準について、経験年数と職位が異なる対象者へインタビュー調査を行なった。

平成 20 年度は、文献検討やインタビュー調査の分析結果ならびに米国にて得た専門的知識に基づき、地域看護職が実践において遭遇する倫理的課題と頻度、倫理的能力（道徳的行動で測定）の構成要素と倫理についての学習経験、実践における判断に影響した経験、倫理の実践に関わる支援環境に関する質問紙を作成した。対象は、全国の保健師および訪問看護師とし、層化抽出法にて抽出し、調査を実施した。

平成 21 年度は、保健師 3409 名、訪問看護師 1795 名の質問紙調査データを統計的に解析した。その結果およびこれまでの調査結果に基づき、体系的倫理教育ラダーおよびそれに基づく倫理教育プログラムを検討し、暫定版を作成、保健師と訪問看護師に対して実施および評価を行なった。その過程で、ナラティブを用いた倫理教育プログラムの必要性が考えられたため、事例を作成し、新人保健師 46 名および経験年数 15 年以上の保健師 35 名を対象に試行した。プログラム評価は、フォーカスインタビューおよび質問紙調査を実施し、その結果からプログラム内容の検討を行なった。

最終年度である平成 22 年度は、これまでの調査結果およびプログラム試行結果から、最終版体系的倫理教育ラダーとそれに基づく倫理教育プログラムの修正および作成を行なった。地域看護職の経験年数および職位に基づく到達段階ごとの倫理教育の目標と方法を検討し、各段階が有機的に連携した継続的かつ体系的な倫理教育ラダーを作成した。また、実践における倫理的能力育成のための、経験年数および職位を考慮した倫理教育プログラムを試行した評価結果に基づきプログラムを修正した。

（2）最終的な研究成果

保健師と訪問看護師それぞれについて、倫理的能力の構成要素（因子）それを構成する項目と経験年数および職位との関連性の検討結果に基づき、倫理教育ラダーを作成した。

体系的倫理教育ラダー

保健師の倫理的能力の構成要素(因子)は【住民とともに進める支援】【困難に向かう強い意志】【支援体制の調整】【対象の価値に基づく判断】【自分の支援の妥当性の判断】の5つが示された。

保健師のラダーの到達段階は、現任教育で区分されることの多い新任期、中堅期、管理期を考慮して、新人(1年未満) 中堅期、管理期の3段階に設定した。このことにより、本研究で作成した倫理教育プログラムを現任教育に組み込むことが容易になると考えられた。また、【支援体制の調整】は経験年数が多くなるほど、職位が高い方が高い能力を示したが、新人や中堅期、管理期の保健師が交流して事例検討等を行う場を設定することで、新人期や経験年数の浅い保健師に、それに関する考え方や実践方法を伝えることになり、本能力獲得の機会になると考えられた。

訪問看護師の倫理的能力の構成要素(因子)は【支援体制の調整】【困難に向かう強い意志】【判断基準の吟味】【組織や他者の基準に基づく判断】【意向のずれの認識】の5つが示された。

訪問看護師は、倫理的能力に関してスタッフと役職者との違いが大きく、それを反映したラダーとなった。訪問看護ステーションの多くは、スタッフと所長である管理者で構成されていることが多い。訪問看護師に対しては、多様な経験年数や管理者と合同のプログラムだけでなく、スタッフと管理者それぞれを対象とした教育プログラムも有効であると考えられた。

倫理教育プログラム

本研究では、地域看護職の倫理教育ラダーに基づく倫理教育プログラムの作成・実施・評価を繰り返しながら教育プログラムを修正・改善してきた。1回の研修で参加者が自身の価値観に気づくことまでは難しいといった限界もみられたが、本研究で作成した教育プログラムは、参加者の倫理的感受性を高め、倫理的課題に関する認識に変化をもたらしており、その有効性が確認できた。われわれはさらに、半日単位を基本構成とする倫理教育プログラムを提案すると共に、研修の期間、参加者の状況に応じた教育プログラムの構成、内容、方法等についてバリエーションを提示し、教育プログラムの構成要素を人材育成に活用する方法や教育体制について提案した。

(3) 今後の課題

地域看護職について、とりわけ就業後の体系的倫理教育がなされていない現状、それが求められるとする多くの指摘があることから(Wagner & Ronen, 1996; Folmar, 1997; 中村, 1998; 中尾ら, 2004; CAN, 2006)、本

研究で提案した倫理教育ラダーと教育プログラムを早急に普及していく必要がある。今後は、本研究結果や倫理的視点の重要性、および倫理教育の必要性を積極的に公表し、研修会の開催等によって広く普及するとともに、組織への働きかけや国が策定する研修ガイドライン等に盛り込むよう提言していくなどの取り組みが必要であると考えられる。

<引用文献>

- Wagner N, Ronen I. (1996) Ethical dilemmas experienced by hospital and community nurses: an Israeli survey. *Nursing Ethics*, 3(4), 294-304.
- Folmar J, Coughlin SS, Bessinger R, et al. (1997) Ethics in public health practice: a survey of public health nurses in southern Louisiana. *Public Health Nursing*, 14(3), 156-160.
- 中村好一, 尾島俊之, 黒澤美智子, 他(1998) 地域保健活動における情報収集・利用の倫理的問題 市町村保健婦を対象とした調査結果より. *日本公衆衛生雑誌*. 45(3), 251-261.
- 中尾久子, 藤村孝枝, 中村仁志, 他(2004) 倫理問題に関する看護職(臨床看護師と保健師)の認識の比較. *生命倫理*, 14(1), 107-113.
- Canadian Nurses Association (2006) *Ethics in Practice, Public Health Nursing Practice and Ethical Challenges*. 1-12.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

- 麻原きよみ: 保健師は日常の活動のなかで倫理的ジレンマを感じている、保健師ジャーナル 64, 144-148, 2008, 査読無.
- 長江弘子, 百瀬由美子, 尾崎章子: 4ステップモデルを用いた倫理教育プログラムの展開方法、保健師ジャーナル 64, 149-153, 2008, 査読無.
- 小林真朝, 宮崎紀枝, 酒井昌子: 4ステップモデルを使ってグループワークをしてみよう、保健師ジャーナル 64, 154-163, 2008, 査読無.
- 岡利香, 大森純子: 倫理教育プログラムの教育効果、保健師ジャーナル 64, 164-167, 2008, 査読無.

[学会発表](計22件)

- Kiyomi Asahara, Maasa Kobayashi, Wakanako Ono, Junko Omori, Hiromi Todome, Emiko Konishi, Akiko Ozaki, Hiroko Nagae, Yumiko Momose, Toshie Miyazaki, Masako Sakai: Components of moral behavior among Japanese public health nurses and differences according to work

experience and position, APHA, 2010年11月7日、アメリカ合衆国コロラド州デンバー

麻原きよみ、小林真朝、大森純子、留目宏美、小野若菜子、百瀬由美子、長江弘子、宮崎紀枝、尾崎章子、小西恵美子、酒井昌子：ナラティブアプローチによる事例検討 - 保健師の倫理教育プログラムへの活用 -、第65回日本公衆衛生学会、2010年10月28日、東京都千代田区

小野若菜子、麻原きよみ、小林真朝、大森純子、留目宏美、長江弘子、酒井昌子、百瀬由美子、尾崎章子、宮崎紀枝：訪問看護師が遭遇する倫理的問題の頻度における訪問看護の経験年数と職位による比較、第13回日本地域看護学会学術集会、2010年7月11日、北海道札幌市

小林真朝、麻原きよみ、小野若菜子、大森純子、留目宏美、尾崎章子、百瀬由美子、長江弘子、宮崎紀枝、酒井昌子：保健師が遭遇する倫理的問題の頻度における保健師経験年数と職位による比較、第13回日本地域看護学会学術集会、2010年7月10日、北海道札幌市

麻原きよみ、小林真朝、大森純子、留目宏美、小野若菜子、百瀬由美子、長江弘子、宮崎紀枝、尾崎章子、小西恵美子、酒井昌子：ナラティブアプローチによる事例検討 - 地域看護職への倫理教育プログラムへの活用 -、日本看護倫理学会第3回年次大会、2010年6月12日、北海道札幌市

小林真朝、小野若菜子、麻原きよみ、大森純子、留目宏美、百瀬由美子、長江弘子、酒井昌子、宮崎紀枝、尾崎章子、小西恵美子：経験年数からみた地域看護職の実践における倫理的思考に影響した経験 - 保健師および訪問看護師を対象とした質問紙調査から -、第14回日本在宅ケア学会学術集会、2010年1月24日、東京都中央区
Maasa Kobayashi, Kiyomi Asahara, Yuko Hirano, Junko Omori, Akiko Ozaki, Toshie Miyazaki, Masako Sakai, Hiroko Nagae, Yumiko Momose, Emiko Konishi：Comparison of ethical dilemmas and coping patterns among Japanese Public Health Nurses by position and work experience, The 4th International Conference on Community Health Nursing Research, 2009年8月17日、オーストラリア・アデレード

長江弘子、麻原きよみ、百瀬由美子、大森純子、宮崎紀枝、大金ひろみ、尾崎章子、酒井昌子、小林真朝、平野優子、留目宏美：保健師と訪問看護師が直面する倫理的判断の困難状況の相違 - 判断に困った理由と対応に関する保健師と訪問看護師の比較 -、第12回日本地域看護学会学術集会、2009年8月7日、千葉県幕張市

Kiyomi Asahara, Maasa Kobayashi, Yumiko Momose, Hiroko Nagae, Masako Sakai, Toshie Miyazaki, Akiko Ozaki, Junko Omori, Yuko Hirano, Emiko Konishi：

Supporting ethically sensitive practice : Development of an educational program for Japanese nurses working in communities, International Council of Nurses 24th Quadrennial Congress, 2009年7月1日、南アフリカ・ダーバン

宮崎紀枝、麻原きよみ、小林真朝、大金ひろみ、酒井昌子、大森純子、百瀬由美子、長江弘子、尾崎章子、平野優子、留目宏美、小西恵美子：地域看護における体系的倫理教育ラダーの開発に向けて - 経験年数の異なる保健師の倫理的課題と自身の行為の認識や思考の特性 -、日本看護倫理学会第2回年次大会、2009年6月6日、長野県佐久市

百瀬由美子、麻原きよみ、尾崎章子、大森純子、小林真朝、平野優子、酒井昌子、長江弘子、宮崎紀枝、大金ひろみ、留目宏美、小西恵美子：訪問看護師の看護実践における倫理的判断の困難状況 - 判断に困った理由の経験年数と職位による比較 -、日本看護倫理学会第2回年次大会、2009年6月6日、長野県佐久市

麻原きよみ、百瀬由美子、酒井昌子、長江弘子、宮崎紀枝、尾崎章子、大森純子、小林真朝、平野優子、大金ひろみ、留目宏美、小西恵美子：訪問看護師の日常実践で遭遇する倫理的課題と対応 経験年数と職位による比較、第13回日本在宅ケア学会学術集会、2009年3月15日、大阪府堺市
大森純子、宮崎紀枝、長江弘子、酒井昌子、麻原きよみ、小林真朝、平野優子、尾崎章子、百瀬由美子：新人保健師を対象とした地域看護倫理教育プログラムの開発と評価 第1報：倫理的問題への対応に関する認識の変化、第11回日本地域看護学会学術集会、2008年7月5日、沖縄県那覇市

平野優子、小林真朝、麻原きよみ、長江弘子、大森純子、酒井昌子、宮崎紀枝、百瀬由美子、尾崎章子：新人保健師を対象とした地域看護倫理教育プログラムの開発と評価 第2報：Moral Sensitivity Questionnaireによる倫理的感受性の変化、第11回日本地域看護学会学術集会、2008年7月5日、沖縄県那覇市

麻原きよみ、宮崎紀枝、酒井昌子、尾崎章子、百瀬由美子、長江弘子、大森純子、小林真朝、小西恵美子：訪問看護師を対象とした地域看護倫理教育プログラムの開発と評価 第1報：教育目標達成度とプロセス評価、日本看護科学学会第27回学術集会、2007年12月8日、東京都千代田区
長江弘子、尾崎章子、大森純子、宮崎紀枝、

酒井昌子, 百瀬由美子, 小林真朝, 麻原きよみ, 小西恵美子: 訪問看護師を対象とした地域看護倫理教育プログラムの開発と評価 第2報: 倫理的問題への対応に関する認識の変化、日本看護科学学会第27回学術集会、2007年12月8日、東京都千代田区

小林真朝, 大森純子, 百瀬由美子, 酒井昌子, 宮崎紀枝, 尾崎章子, 麻原きよみ, 長江弘子, 小西恵美子: 訪問看護師を対象とした地域看護倫理教育プログラムの開発と評価 第3報: MSQによる倫理的感受性の変化、日本看護科学学会第27回学術集会、2007年12月8日、東京都千代田区

Akiko Ozaki, Yumiko Momose, Masako Sakai, Maasa Kobayashi, Kiyomi Asahara, Hiroko Nagae, Junko Omori, Maki Umeda, Toshie Miyazaki, Emiko Konishi: Evaluation of the ethics education program for home health nursing - the changes in the awareness of home health nurses and changes in MSQ -, The 1st Korea-Japan Joint Conference on Community Health Nursing, 2007年11月23日、韓国ソウル市

Toshie Miyazaki, Maasa Kobayashi, Kiyomi Asahara, Yukiko Momose, Maki Umeda, Junko Omori, Masako Sakai, Akiko Ozaki, Hiroko Nagae, Emiko Konishi: Evaluation of the Ethics Education Program for Community Health Nursing - The Changes in the Awareness of PHNs and Changes in MSQ -, The 1st Korea-Japan Joint Conference on Community Health Nursing, 2007年11月23日、韓国ソウル市

麻原きよみ, 大森純子, 梅田麻希, 小林真朝, 尾崎章子, 宮崎紀枝, 百瀬由美子, 酒井昌子, 加藤典子, 小野若菜子: 保健師を対象とした地域看護の倫理教育プログラムの開発と評価 第1報: 作成過程と教育目標達成度およびプロセス評価、日本地域看護学会第10回学術大会、2007年7月28日、神奈川県横須賀市

²¹ 百瀬由美子, 尾崎章子, 宮崎紀枝, 大森純子, 麻原きよみ, 梅田麻希, 小林真朝, 加藤典子, 小野若菜子, 酒井昌子: 保健師を対象とした地域看護の倫理教育プログラムの開発と評価 第2報: 倫理的問題への対応に関する認識の変化、日本地域看護学会第10回学術大会、2007年7月28日、神奈川県横須賀市

²² 小林真朝, 梅田麻希, 大森純子, 麻原きよみ, 百瀬由美子, 尾崎章子, 宮崎紀枝, 小野若菜子, 酒井昌子, 加藤典子: 保健師を対象とした地域看護の倫理教育プログラムの開発と評価 第3報: 倫理的感受性の

変化、日本地域看護学会第10回学術大会、2007年7月28日、神奈川県横須賀市

6. 研究組織

(1) 研究代表者

麻原 きよみ (ASAHARA KIYOMI)
聖路加看護大学・看護学部・教授
研究者番号: 80240795

(2) 研究分担者

小林 真朝 (KOBAYASHI MAASA)
聖路加看護大学・看護学部・助教
研究者番号: 00439514

< H19のみ、H20 H22: 連携研究者 >

小西 恵美子 (KONISHI EMIKO)

佐久大学・看護学部・教授

研究者番号: 70011054

百瀬 由美子 (MOMOSE YUMIKO)

愛知県立大学・看護学部・教授

研究者番号: 20262735

酒井 昌子 (SAKAI MASAKO)

聖隷クリストファー大学・看護学部・准教授

研究者番号: 60236982

尾崎 章子 (OZAKI AKIKO)

東邦大学・医学部・教授

研究者番号: 30305429

長江 弘子 (NAGAE HIROKO)

千葉大学大学院・看護学研究科・教授

研究者番号: 10265770

大森 純子 (OMORI JUNKO)

聖路加看護大学・看護学部・准教授

研究者番号: 50295391

宮崎 紀枝 (MIYAZAKI TOSHIE)

佐久大学・看護学部・准教授

研究者番号: 50349172

< H19のみ、H20: 連携研究者 >

平野 優子 (HIRANO YUKO)

聖路加看護大学・看護学部・助教

研究者番号: 70459246

(3) 連携研究者

< H20-22 >

留目 宏美 (TODOME HIROMI)

聖路加看護大学・看護学部・助教

研究者番号: 20516918

< H21-22 >

小野 若菜子 (ONO WAKANAKO)

聖路加看護大学・看護学部・助教

研究者番号: 50550737